

第3回 まちづくり戦略ビジョン審議会 経済・雇用部会 議事録

日時 平成24年(2012年)7月30日(月)14:00～17:00
会場 札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ

1 開会

【稲木課長】

定刻より少し早いですが、第3回札幌市まちづくり戦略ビジョン経済・雇用部会を始めさせていただきたい。本日は川崎委員と早川委員、山田専門委員が欠席している。また、北海道大学より平本教授にご参加いただいている。

本日は、「ビジョン全体の構成について」と「経済・雇用委員に関する重点戦略」についてご議論いただきたい。今後の進行については内田部会長にお願いする。

2 議事

【内田部会長】

まずはビジョンの全体構成について、事務局よりご説明いただく。

【稲木課長】

(事務局より資料の説明)

【内田部会長】

現状認識と基本目標、方向という大枠での計画の骨子をまとめていただいた。最初にこれについてご議論いただきたい。

【石森委員】

全体的には良くまとまっていると思うが、ビジョン全般において、世界的な視野の中での札幌の位置づけがいまひとつ明確になっていない。

また、記述自体もローカルな視点に立ったものが多い。例えば、札幌市の外国人居住者数が政令市で最も少ないといった内容は戦略上における問題に起因しているのではないだろうか。北海道全体が地盤沈下するなか、札幌市が北海道を牽引していくためには、もう少しグローバルな視点が必要ではないだろうか。

例えば、市民にグローバルな現状を知ってもらうために、札幌市の外国人居住者数などを明記してみてもどうか。

【内田部会長】

札幌市には対道内、対日本、対世界といった認識がない、ということはこれまでの議論でも意見が挙げられていた。簡単にいうと内側に意識が向いているということだ。

これからの時代は、世界の影響を直接的に受ける可能性が高い。そうした大きな潮流を意識した上でビジョン

を策定してほしいというご指摘かと思う。例えば、ビジョン編第3章の都市像に記載されている「北方圏の拠点都市」だが、これからも北方圏に目を向けるだけで良いのか、ということになる。もっと具体的に、これからの時代に合った札幌の都市像を掲げるべきではないだろうか。

【石森委員】

北方圏の拠点というのは当たり前のことだし、もっと明確にしなければいけないと思うが、北海道が思っている以上にアジアはもっと北海道のことを評価している。札幌市民や道産子よりも北海道に熱い思いを持っているアジアの人はいるが、何となくミスマッチになっている。札幌の人は本当にアジアの人々を歓迎する意思があるのか。そういったことも外国人居住率に現れているのではないか。

【池田委員】

「北方圏の拠点都市」という時代は終わったのではないだろうか。今後、札幌市はアジアの拠点であり、また世界の拠点にもなるという意味を明確に持つべきである。北海道はアジアの星に見えるという話もある。そのことをもっと打ち出していくべき時代が来ると思う。そこに住む私たちもこれまでの北方圏という概念から一歩外に出ても良いかもしれない。

【為定委員】

福岡市はアジアの玄関口と呼ばれており、中国や韓国へは距離的にも近い。しかし、それ以外のアジア諸国との距離は福岡もそれ以外の都市もそれほど変わらない。札幌がアジアの拠点として担える役割がある。北方圏だけではない、アジアにおける札幌の位置づけを明確にしていく必要がある。そうしたイメージを具体化していくことで札幌の都市像が見えてくる可能性がある。

【石森委員】

2012年はLCC元年と言われており、格安の料金で国内外を行き来できるようになっている。他には、カウチサーフィンというホームステイの世界的ネットワークなども存在しており、今後ますます世界規模での人的交流が活発になっていくだろう。

アジアの中での北海道という観点から見ると、資源やポテンシャルなどの点から、北海道は想像以上にアジアで評価されている。特にASEANにとって、札幌はかなり特別な位置づけを持っている。

【内田部会長】

国内外に様々なアジアの拠点があるなかで、札幌市がアジアの拠点となるためには、独自のスタンスをアピールしていかななくてはならない。

観光などの大々的なキャンペーンを組むことも必要だが、草の根的な活動も大切である。長期的なつながりを持つためには相互に交流することが一番であり、例えば、高校生同士の都市間交流を継続的に実施することなどが好例だろう。こうした取り組みを札幌市がバックアップしてみてもどうか。若い世代に投資するという考えを是非持っていただきたい。

プランだけ作って後は任せますではなく、具体的に実施することや行政に出来ることなどを、より具体的にビジョンに示してほしい。

【平本委員】

まずはタイトルについて。「戦略ビジョン」とは何を指しているのだろうか。まちづくり戦略に関するビジョンなのか、それともまちづくりに関する戦略およびビジョンなのかがはっきりとしない。他にも全体構成と概要では、戦略・ビジョン・計画・政策・施策など似たような言葉が混在しているが、厳密には意味合いが異なる。

例えば戦略という言葉を使うのであれば、何かしらの優位性を示し差別化を図るような記述にするべきだ。また、決定事項を実現することが前提の計画とは異なり、戦略は必ずしも決定事項が実現するとは限らない。そこで目標だけは明確にし、実施方法については柔軟に対応できるような記述にしてみてもどうか。

戦略の要諦は何をするかではなく、何を切り捨てるかにある。まちづくり戦略ビジョンもあえて余分なものを切り捨てることによって、目標をクリアにすることが出来るのではないだろうか。

【内田部会長】

施策も内向的なもの、外向的なものが混在しているため、すっきりしていないという印象はある。また、予算にも限りがあるため、施策のどれかを切り捨てなければならない。だが、切り捨てることによって先に進むことができることを示す必要がある。そのためにも、何故やめるのかという説明はきっちりするべきだ。

今後 10 年間で予算が大幅に増えることはまずないだろう。大規模な取組でなくても良いので、時間をかけて地道に取り組んでいくことによって成果を出すようにしてみてもどうか。

【為定委員】

今後 10 年の間、国際社会における札幌市の位置づけを明確にすることが必要となるだろう。資料 3 に記載されている重点戦略Ⅱが成功するかどうか、そこにかかっている。

これからは、自治体みずからが国際社会の一員としてのビジョンを持って、世界へと打ち出していかなければならない。これは産業政策だけではなく、コミュニティづくりにとっても重要なことである。

例えば、高齢化が進むなか、介護の労働力を国内だけでまかなうことが近い将来できなくなるかもしれない。そうすると海外からの人員に頼らざるを得なくなる。その時、外国労働者をどのように受け入れるのか。企業だけではなく、自治体も考えていかなければならない。

3 重点戦略案について

【稲木課長】

(事務局より資料の説明)

【池田委員】

この経済・雇用部会で想定している産業とは何かをもう一度考えてみたい。そこで、食産業や観光産業など、雇用を生み出すような、あるいはまちに活力を生み出すような産業を列挙していただきたい。

【稲木課長】

食や観光は、札幌に優位性がある分野だ。逆に健康・福祉、環境については地域が抱える課題として少子高齢化や人口減少、エネルギー問題などが挙げられる。また、札幌はものづくりの分野が弱いという部分もある。

【石川部長】

食・観光・健康・福祉の4分野は、平成23年度に策定した産業振興ビジョンにおいて特に注力しようと考えている分野である。その中のひとつである「食産業」は、いわゆる食のものづくり産業だけではなく、道内の1次生産者、マッチングおよび域外販売を実施する2次産業、サービスとして提供する3次産業などを含んでいる。

また、観光産業についても様々な産業群が纏わってくると思う。

【池田委員】

それぞれの分野で具現化しつつあるもの、具現化しなければならないもの、それらに対する課題や目標等がわかれば、強化すべき分野や現状で不足している点などが具体的に見えてくる。

【石川部長】

札幌が経済活動をする上での売り物、その最たるものが食である。しかし、札幌単独で売り出していくことには無理がある。そこで北海道がキーワードとなる。食関連産業の付加価値を高めていくためには、北海道産であることにこだわり、積極的にアピールすることが必要だ。

他にも、観光については、北海道の魅力をPRし、道内各地とのネットワークを形成することを、札幌の役割として捉えても良いのではないだろうか。

【中嶋委員】

資料2を見て思ったのだが、選択と集中という観点において、ここに記載されている内容は全て重要な項目になるのだろうか。これらの取組を全て実施出来れば良いが、そうでなければどこが重点なのかを知りたい。

レベル分けをしていくのであれば、時代の流れで必然的に起こるもの、可能性を含んでいるもの、開拓しなければならないものの3つが挙げられる。それらの中で、とにかく実行できるものからやっていけば良いのか、それとも、しっかりと予算を確保して取り組むような重要案件からやっていくべきなのだろうか。それらの振り分けを教えてください。

【石川部長】

まず、資料1にかいてある重点戦略の3つの柱についてだが、これらはまさに選択と集中によって選ばれたと理解していただきたい。つまり、地域・経済・環境・エネルギー政策全てが重点であり、この経済雇用部会においては、経済活動全般が選択対象となる。そして、その経済活動の中から特に重点的な項目を選択し、集中して取り組んでいくこととなる。

また、資料2の重点戦略にある分野の柱について、一つ目は付加価値の創造による産業の高度化、二つ目

は新たな販売手法の確立、三つ目は経済活動を支える人材の育成を挙げている。

いずれにしても、ここに記載されている内容は、今後 10 年間札幌市の施策として優先度が高いものであると認識していただきたい。

【中嶋委員】

重点内容が、表に上手く反映されていないように見受けられる。例えば、予算が 100 万円あるとして、1 項目に全て使うのか、10 項目に 10 万円使うのか、その辺りがまだよく判らない。

【石川部長】

重点戦略に関しては、タイトルの示すとおり、施策の方向性を表わしている。どの施策にどれくらい予算を計上するかといった内容については、それぞれの中期計画等で示していく予定だ。

【為定委員】

各論はこれから詳細が明らかになっていくことは理解した。ただ、重点戦略の 10 項目が一つの表に並列表記されていることにより、施策の重要度が抽象的になってしまっているのではないだろうか。例えば、方法論と産業分野の結びつきが示されるような図式などに表現できないだろうか。

【石森委員】

資料 2 の重点戦略Ⅱに記載されている「分野の柱」および「施策の方向性」は、並列的ではなくマトリクス的に示すべきではないか。少し総花的な印象を受ける。他にも、食についてはどのような戦略を取るのか、観光についてはどうなのかといった詳細な内容が合わさると、より具体的なイメージに結びつくのではないだろうか。

【池田委員】

資料 1 にあるような新しい時代に対応した生活都市と、そこから雇用が生まれてくるあり方。産業群と生活という部分がまちづくり戦略の柱を占めるのではないだろうか。

そこで、まずは産業振興ビジョンに記載されている産業と、まちづくり戦略ビジョンの「産業」の意味を統一すべきかどうかを検討し、次に、方法論としては国際化戦略や規制緩和など様々な手法があるが、産業群がどのような形で展開していくかというシミュレーションを行う必要がある。

生活についても、コンパクトシティやスマートシティなど、もう少し具体的な姿を示すことによって 2 つの柱の議論がより深まるのではないだろうか。こうした段階を経ることによってはじめてビジョンが出来上がってくる。

最後に、産業群と生活の他に、この部会で話し合うべき分野があるのかといった確認も行っていたきたい。

【石川部長】

まず産業群についてだが、重点戦略に記載されている 4 つの産業群が中心になるという認識である。表の見せ方についても、いただいたご意見をもとに、より具体的にわかりやすく記載していく。

なお、それぞれの産業群のシミュレーションについては、「創造性で付加価値を高める」がキーワードとなる。

産業群の強みや既存の魅力をブラッシュアップし、オール札幌で取り組んでいく。そのためにはどういった知恵を互いに持ち寄れるかがポイントとなるだろう。

【池田部長】

産業を強くするには人材が重要な要素となる。顧客満足度はもちろんだが、同時に社員満足度も高めていかなければならない。それら両輪もまた、札幌のまちづくりの大きな柱になるのではないだろうか。

【石川部長】

市民が持つ潜在的な力を活用する。例えば、単に大量生産をする時の労働力としてではなく、付加価値を高めるために女性や高齢者の視点および力を活かすことができないか。

生活と雇用という観点では、例えば介護問題。より身近な地域で在宅福祉を営む社会を実現する際、これまではなかったソーシャルビジネスの視点が今後の経済や雇用を支える一翼として発展していこう。

【内田部会長】

まだ全体像が見えないという指摘だと思うが、行政としては区分けして書かざるをえないところがあるので了承いただきたい。

産業についてだが、わかりやすい例として環境問題、その中でもゴミの問題がある。環境産業といった場合、必ずゴミ問題が発生する。ゴミのないまち、ゴミを利用するまち、それだけでも産業は成立する。例えば、札幌市をゼロエミッション都市にすることを目標とする。そのためには容器などは捨てることが無いよう、食べることができるようなものを作ってみる。成功すれば他都市が真似をする。本当の意味での環境都市として世界に認められるにはそれぐらいのことをやっつけていかなければいけない。このように札幌の都市像が明確になれば、産業に結びつけることもできる。問題は、その発想をどこから持ってくるかだ。

【内田部会長】

1998 年ごろから、日本の自殺者数は 3 万人を超えている。主な原因のひとつとして、雇用の悪化が挙げられる。年齢も 30～40 代が多い。近年の札幌市の自殺者数は増えているのだろうか。

【石川部長】

平成 10 年をピークに、年 400 人前後と、ほぼ横ばい状態で推移している。

【内田部会長】

自殺者がなくなる都市、ということも有り得るのではないだろうか。自殺を考えている人をケアするような仕組みを行政が注力する。行政の計画にそういう視点があっても良いと思う。

世界で起きている様々な問題のうち、札幌市でも発生しているものはどれくらいあるだろうか。そして、その問題を札幌市ではどのように解決できるだろうか。この方法を考えてみるのも良いかも知れない。もし、問題がなければ、今度は札幌市の良い点を探してみる。

「環境都市」の議論をすると、各人イメージがまちまちとなる。その点「ゴミのない都市」となると、とても解りやすい。小さな子供でも理解できる。

【為定委員】

4つの産業に共通する内容としてゴミ問題が挙げられたが、このように共通したキーワードを探すのはとても重要である。共通したキーワードがあるとシナジー効果を生みやすい。シナジー効果が生まれるということは、効率的に価値を生み、また創造性を持って付加価値を高めることにもつながる。

【池田委員】

この会議は経済雇用部会なので、札幌の産業を一覧して、産業に対する雇用や制度のあり方をこの部会で明確にしていくことが重要だと思う。そのためにも、各産業の強み弱みや雇用のあり方にもっと踏み込む必要があるのではないだろうか。

【石川部長】

現在は審議会に諮問している段階である。答申については、施策の方向性を打ち出したものに対して行っていただきたいと考えている。また、このビジョンは行政計画という位置づけになるため、同時進行で庁内検討をしている。

【池田委員】

今10個ある柱が10年後にはこうなっていると良いという理想形、あるいはバラ色のゴールを描いて見てはどうだろうか。例えば国際化を進めたらこんな企業が生まれた、など。実現するかどうか判らない夢が戦略に掲げられていることはどうかと思うが、ビジョンとしてなら許されると思う。

【内田部会長】

都市像のキーワードが出てこない、イメージできていない理由はまさにそこである。

【平本専門委員】

夢が描きにくい時代だからこそ、あえて書いてみるのは良いかも知れない。

【石川部長】

まちづくり戦略ビジョンの全体構成と概要の第4章に、目標という形で10年後の姿を描いている。

【池田委員】

札幌市経済局とも連携しているが、香港プロジェクトやアジアプロジェクトについても「安全な食品」がキーワードとなっている。値段以上に安全が求められている。その信頼を壊さないようにするにはどうしたら良いか。また、安全であることを前面に押し出して言えるようなビジョンを掲げ、それを実現するためにはどうすれば良いか。

【内田部会長】

回りから様々な意見が出てきても、「札幌市はこれで行く」と言えるようにならなくてはいけない。

【池田委員】

他の部会の状況は？

【浅村課長】

都市構造部会および地域コミュニティ部会からそれぞれ重点戦略についてご議論をいただいた。やはりさまざまなお意見をいただいているところだが、一旦ご意見を集約し、各部会長と調整をしたうえで、次の審議会に提出し、そこで全体の議論をしていただく。中身については適宜他の部会の資料等も提供していきたい。

【池田委員】

国では6次産業化を打ち出しているが、その6次産業にデザインや文化をプラスした7次産業というものを出してみてもどうだろうか。ものづくりとデザインを有機的に組み合わせていく産業だ。

【中嶋委員】

この会議は経済雇用部会なので、これらの施策を実施して、10年後にどれだけの雇用を生み出すことができるか、その数が成功指標につながる。全ての施策が雇用を生み出すことにつながっているのだろうか、ということを中心に考えるのも重要ではないだろうか。選択と集中、プラス効率も考慮しなければいけない。

4 閉会

【稲木課長】

今後のスケジュールについてだが、修正した内容は次回開催の審議会に提出する予定である。修正案については適宜確認していただくが、基本的には部会長に一任していただきたい。

以上